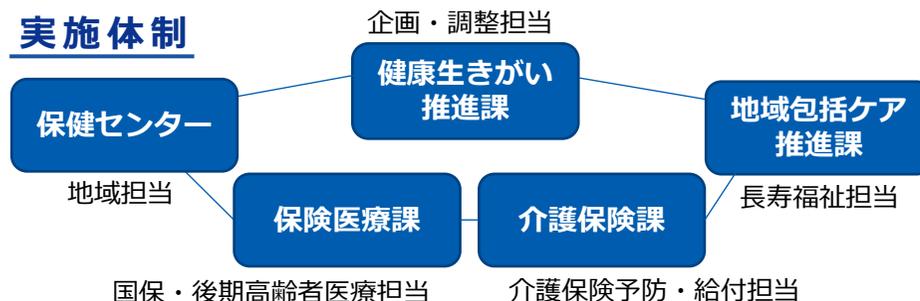


愛知県小牧市 一庁内プロジェクトチームによる効果的な一体的実施体制の構築

市の概況(令和4年4月1日時点)

人口	150,684人
高齢化率	25.2%
後期被保険者数	19,976人
日常生活圏域数	6圏域

実施体制



取組の経緯

- これまで庁内各課で健康づくり事業と介護予防事業に取り組んでいた体制を改め、令和2年度から健康生きがい推進課が統括して一体的実施に取り組むことに決定。庁内連携組織である「フレイル対策のあり方検討プロジェクトチーム」を設置するとともに既存事業を整理し、重複事業の見直し、必要な事業の充実化を図る。
- 小牧市の最も特徴的な取り組みとしては「保健連絡員」というボランティア制度。自治会から推薦された保健連絡員は、行政と地域を結ぶパイプ役となり、地域における健康づくりやフレイル予防の担い手として期待し、保健センターが中心となり伴走型支援を実施している。

企画調整・関係機関との連携

- 庁内連携**
2部5課からの担当で構成されるプロジェクトチームでは、2ヶ月に1回程度、会議を開催。事業の進捗、現状の課題及び次年度に向けた方向性等を共有することにより、関係部署が同じ方向を向いて一体的実施を推進。また、連携できる事業(すべき事業)のアイデアも共有し、令和3年度からは充実させるべき新たな事業も実施。

● 医療関係団体等との連携

【小牧市民健康づくり推進協議会】：医師会、歯科医師会、薬剤師会をはじめ、関連団体からなる協議会を開催(年3回開催) ※保健連絡員、民生委員等も参加し、小牧市の健康づくり、一体的実施事業について情報共有。

【介護予防推進部会】：地域包括支援センター(保健師・看護師)と市担当者との情報共有の場(月1回開催)

ハイリスクアプローチ

- 健康状態不明者等**
後期高齢者の質問票を8月ごろ送付。返信があった者の中からフレイルリスクの高い者及び指定した回答期限までに返信の無かった者に支援を実施。
→ 地域包括支援センターの専門職が10月以降順次訪問を行い、健康状態の把握及び相談、必要な医療・介護につなぐ。

※工夫点：各地域包括支援センターの専門職が訪問することで、各圏域のサービスや事業の紹介を行うことができ、対象者に合わせた支援を実施。



ポピュレーションアプローチ

- その他の取組**
 - ・ 通いの場(市内80か所)に出向き、後期高齢者の質問票を活用したフレイルチェック、フレイルに関する知識の普及啓発を実施。
→ 参加者のフレイル状態を把握し、低栄養や筋力低下等の状態に応じた保健指導や生活機能向上の支援等を行う。また、把握したフレイル状態に応じて、健診や医療の受診勧奨、介護予防事業や社会資源へつなぐ。
 - ・ 小牧市リハビリテーション連絡会の協力のもと作成した市独自の介護予防体操「こまき山体操」を用いたフレイル予防の充実。
 - ・ 担い手育成を含めた介護予防教室を開催。修了生を介護予防リーダーとして養成し、通いの場におけるフレイル予防を充実化。
 - ・ 企業活力を活用した'気づき'の支援ときっかけづくり。

愛知県小牧市

事業結果と評価概要（令和3年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	健康状態不明者等	113	113	アプローチした者のうち、状況を把握できた者 ・質問票返信者数 ・アンケート調査結果 I) 健康状態に関する質問項目で「①よい、②まあよい、③ふつう」と回答した者 II) 生活満足度に関する質問項目で「①満足、②やや満足」と回答した者 ・質問票未返信者への訪問 そのうち、状況把握ができたものの数 そのうち、社会資源・市の事業紹介をしたものの数 ・質問票返信者のうち状況把握が必要とされた者	98名（86.7%） 75名（66.4%） I) 75名中67名（89.3%） II) 75名中68名（90.7%） 37名中37名 23名（62.2%） 21名（91.3%） 26名
ポピュレーションアプローチ	その他複合的取組	1,730	683	・実施した通いの場の件数 ・令和2年度後期高齢者健康診査受診者の質問票結果と比較して、割合が高かった項目（サロン参加者の質問票割合/令和2年度後期高齢者健康診査受診者の質問票割合） ・1日3食食べていない者の割合 ・半年前と比べて固い者が食べにくくなった者の割合 ・お茶や汁物等でむせることがある者の割合 ・6か月間の体重減少 ・1年間に転んだことがある者の割合 ・物忘れがあるとされている者の割合	30か所 (4.8%/3.8%) (31.5%/30.5%) (27.8%/21.9%) (14.9%/12.6%) (20.7%/19.6%) (17.9%/16.7%)
・ポピュレーションアプローチのフレイルチェックでは、対象者にA3版質問票シート（後期高齢者の質問票15項目の質問を最大4回チェックできるシート）を配布し、青（調子が良い）と赤（調子が悪い）のシールを貼ってもらい、自身の健康状態の見える化を図り、必要な健康教育につなげている。 ・通いの場では、まずフレイルチェックで健康状態を把握し、赤シールが貼られた質問項目に応じて、小牧市リハビリテーション連絡会の協力のもと作成した相撲の型を取り入れた介護予防体操「こまき山体操」を実施している。 ・令和3年度の結果を分析し、ポピュレーションアプローチ後につなぐことのできる事業が少ないという課題に対応するため、令和4年度からは、短期集中の介護予防教室を開始するとともに、栄養と口腔に課題を抱える対象者に対応するため、栄養士が通いの場に出向いて栄養指導等を実施している。					

課題・今後の展望

- これまでフレイル対策に重点を置いて一体的実施の事業を推進し、庁内及び医療関係機関との連携が図れてきたところである。今後は生活習慣病対策にも目を向け、糖尿病性腎症重症化予防等にも力を入れた取組を並行して実施していきたいと考えている。
- 後期高齢者の生活習慣病対策には働き世代からのアプローチが重要である。企業の健康経営の支援に視点をおきながらも、すべてを行政で実施するのではなく、民間企業等と連携しながら、企業のもつ知識や技能を、地域や企業が活用できる仕組みを整理し、実施していく。